

平成 29 年度 草の根・人間の安全保障無償資金協力
「シリア難民雇用及び支援のためのエレバン市飲食店設立計画」 供与式の実施

平成 30 年 11 月 29 日(木)、草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みによる「シリア難民雇用及び支援のためのエレバン市飲食店設立計画」の贈与契約の供与式典が、エレバン市において開催されました。本式典には、山田在アルメニア大使の他、被供与団体である NGO「アレppo 同胞のための慈善団体」のバルキャン常任理事、アルメニア政府よりサルグシャン・ディアスポラ次官、ドイツ大使館よりキースラー在アルメニア大使、米国大使館よりマンズール在アルメニア臨時代理大使、国際連合難民高等弁務官事務所(以下「UNHCR」)よりオースト代表、その他人道援助団体関係者等が多数出席しました。

本計画は、エレバン市中心部にシリア難民を雇用対象とした飲食店を設立し、被供与団体が行う最も脆弱な難民層の経済的自立と社会統合活動を支援するものです。同飲食店では、貧困女性や障害者を含む約 30 名の脆弱な難民を常時受け入れると共に、経費を除いた全ての収益をシリア難民支援に向けることで、アルメニア国内における難民支援活動の更なる発展に貢献します。尚、本計画は UNHCR の推薦の下、GIZ を含む複数パートナーとの協調案件となり、在ヒューストン聖ケボルク教会が施設の購入に寄与し、GIZ が機材供与、日本政府が施設の修復を行いました。

※参考情報：シリアには元々10 万人を超えるアルメニア系シリア人が居住していたと推定されていますが、シリア内戦により 2.2 万人以上のアルメニア系を中心としたシリア難民がアルメニアに逃れており、そのうち約 1.5 万人がアルメニアでの定住を希望しています。アルメニア政府は積極的に難民の帰化事業に取り組んでいるものの、約 6 割が貧困層とされる難民の経済的自立とアルメニア社会への統合は大きな課題となっています。

案件名： シリア難民雇用及び支援のためのエレバン市飲食店設立計画 (於エレバン市)
被供与団体： NGO「アレppo 同胞のための慈善団体」(The Aleppo Compatriotic Charitable Organization)
贈与金額： 40,635 米ドル (4,469,850 円)
贈与契約締結日： 2018 年 3 月 14 日(水)

本件に関する報道ぶりは以下のリンクをご参照願います。

[News.am “Syrian Cuisine Center opens in Yerevan \(English\)”](#)

[Youtube: News.am Channel \(Armenian\)](#)

[Youtube: Aysor TV \(Armenian\)](#)



バルキャン常任理事より飲食店入り口にて
歓迎を受ける山田大使



バルキャン代表による開会の挨拶



サルグシヤン・ディアスポラ次官による祝辞
(山田大使左手隣)



山田大使による祝辞



キースラー・ドイツ大使による祝辞



オースト UNHCR 代表による祝辞



山田大使による記念メッセージ



協賛団体を示す ODA プレート



飲食店事業の開始風景